

令和7年度第2回久留米市スポーツ推進審議会

日時：令和7年10月23日（木）14時00分～

場所：荘島体育館 会議室

1. 会長あいさつ

2. 議事

（1）市民意識調査からみる本市のスポーツを取り巻く現状について

（2）次期計画策定に向けた関係団体からの意見について

（3）子どもの運動・スポーツの習慣に関するアンケートについて

（4）次期計画の骨子案について

3. その他

久留米市スポーツ推進審議会委員 名簿

区 分	氏 名	所 属
学識経験者	<small>みぎた たかし</small> 右田 孝志	久留米大学 人間健康学部スポーツ医科学科教授 ◎
	<small>ゆきざね てつぺい</small> 行實 鉄平	久留米大学 人間健康学部スポーツ医科学科准教授
市議会	<small>くさば きみはる</small> 草場 公晴	久留米市議会議員
	<small>やまさき ケブン</small> 山崎 ケブン	久留米市議会議員
	<small>やまだ たかお</small> 山田 貴生	久留米市議会議員
学校体育	<small>たなか まきのぶ</small> 田中 雅信	久留米市中学校校体育連盟会長
	<small>や の く に ひ こ</small> 矢野 邦彦	久留米市立南小学校長
関係団体等	<small>たてやま はつみ</small> 豎山 初美	久留米市バレーボール協会副理事長
	<small>つかもと みゆき</small> 塚本 深雪	久留米市剣道連盟事務局
	<small>た な か た か こ</small> 田中 太嘉子	久留米市カヌー協会理事
	<small>なかむら とちみ</small> 中村 智美	総合型地域スポーツクラブクラブマネジャー
	<small>いなます ひさゆき</small> 稲益 久之	(公財) 久留米市スポーツ協会常務理事兼事務局長
その他市長が特に必要と認めた者	<small>い で ひろし</small> 井手 浩	障害者スポーツ指導員
	<small>た な か き み よ</small> 田中 紀美代	久留米市スポーツ推進委員連絡協議会副会長
	<small>こ が き み こ</small> 古賀 喜美子	久留米市スポーツ推進委員連絡協議会副会長 ○
	<small>まつふじ のりこ</small> 松藤 倫子	健康運動指導士
	<small>ひろまつ かずみ</small> 廣松 和美	久留米市市民文化部長

◎：会長、○：副会長

※ 委員の任期は令和6年1月1日～令和7年12月31日まで。

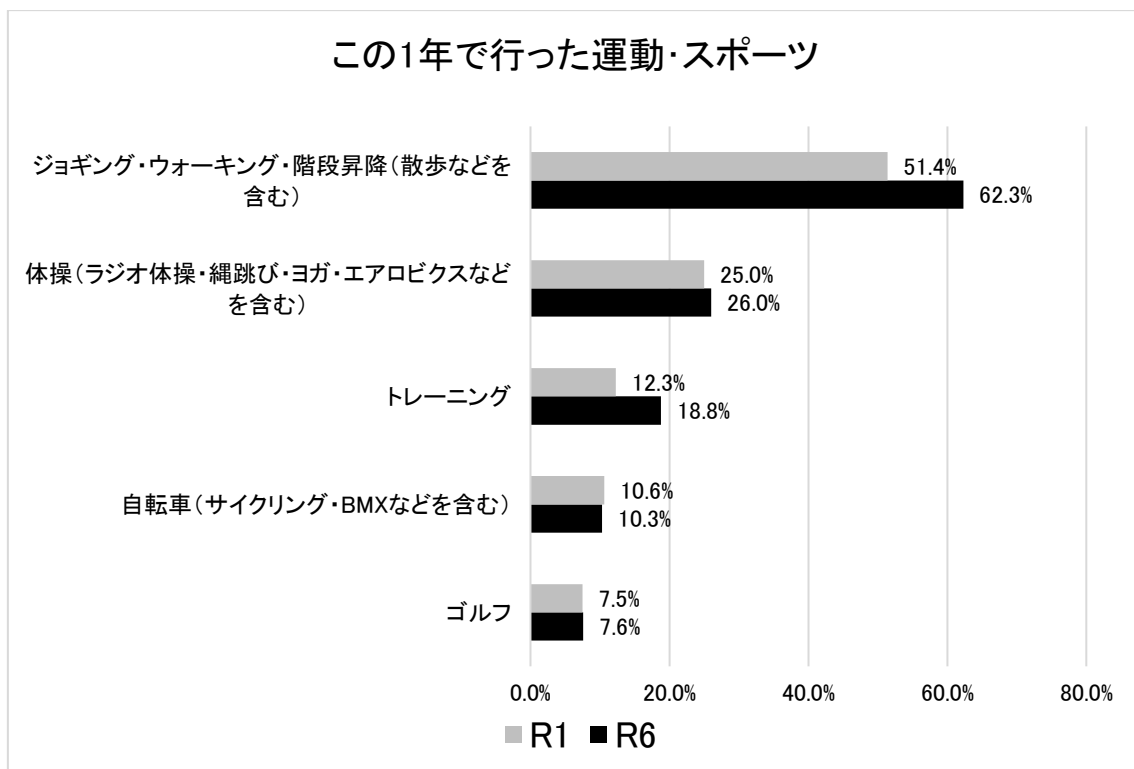
議事（１）市民意識調査からみる本市のスポーツを取り巻く現状について

令和６年度に市が実施した市政アンケートモニター「くるモニ」の結果から、本市における市民のスポーツに関する意識や実態の把握を行った。

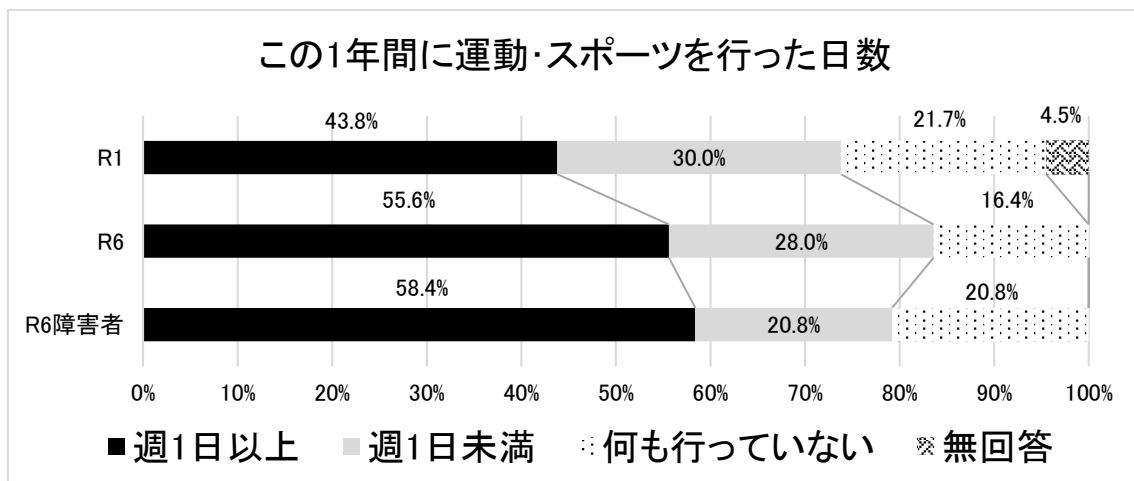
（１）調査項目

- この１年間で行った運動・スポーツ、及びその頻度、場所
- 今後やってみたい運動・スポーツ
- 現在の市内運動・スポーツ施設に対する満足度、及び不満の理由
- 今よりもっとスポーツに親しむために久留米市に力を入れて欲しいこと

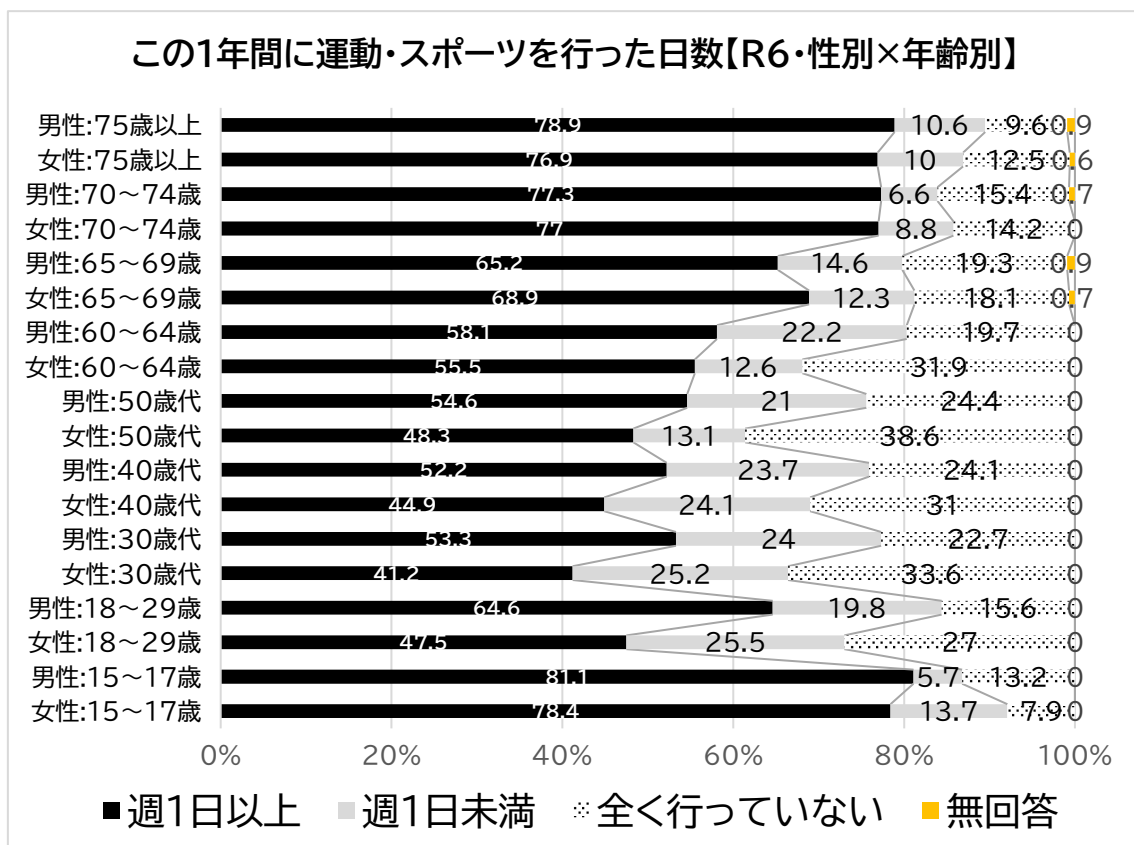
（２）調査結果



上位５項目を抜粋し、令和元年度市民意識調査と比較している。ウォーキングや体操といった身近な場所でできる運動・スポーツが上位を占め、またトレーニングの割合が増えている。

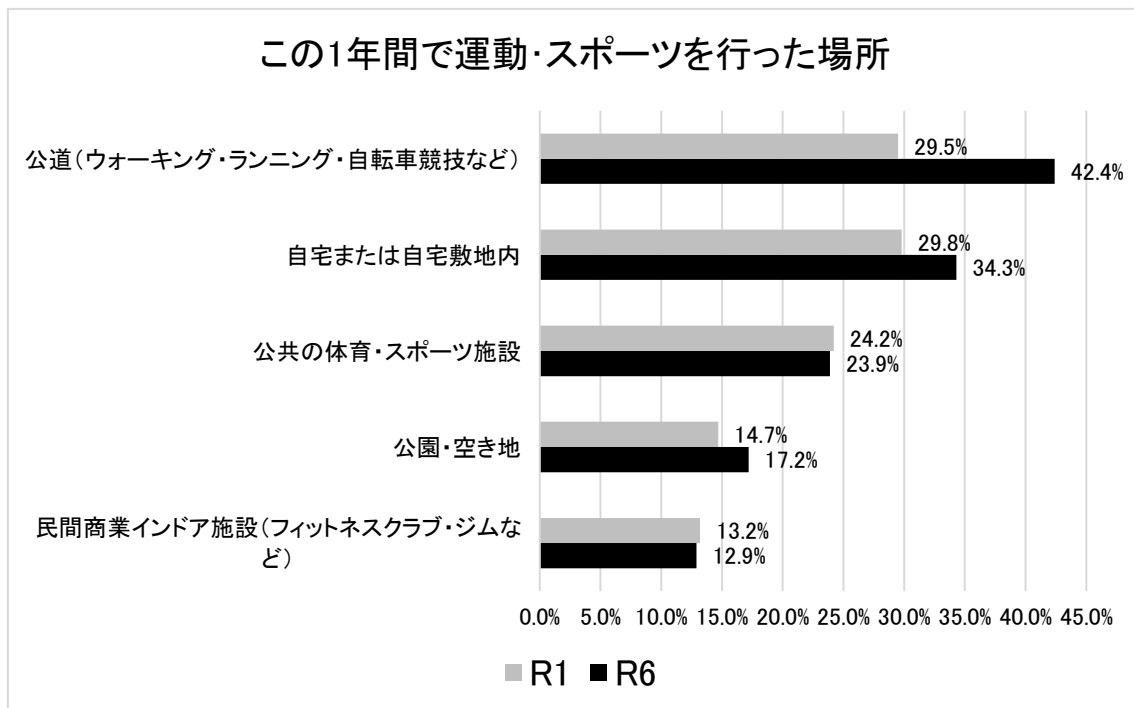


令和元年度市民意識調査と比較すると、週1回以上の運動・スポーツ実施率については11.8ポイント増加、未実施率については5.3ポイント減少している。

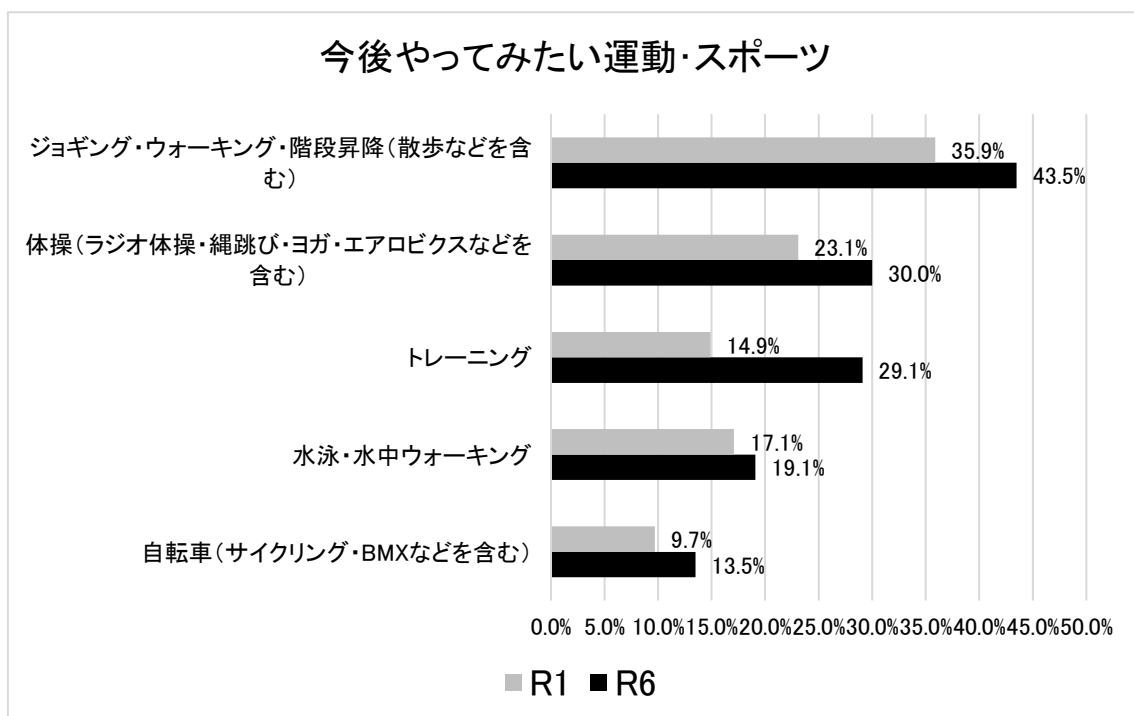


令和6年度市民意識調査における運動・スポーツの実施率の内訳を男女別で見ると、64歳以下については女性の方が男性より低い傾向があり、若い世代でその差が顕著となっている。

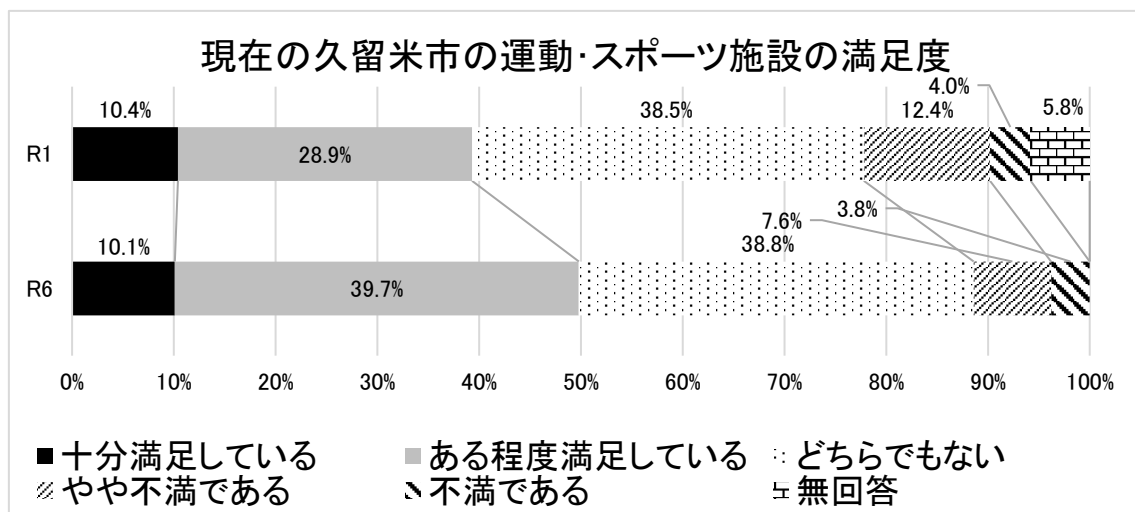
また年代別では、20～40歳代といった若者世代・現役世代が低くなっている。



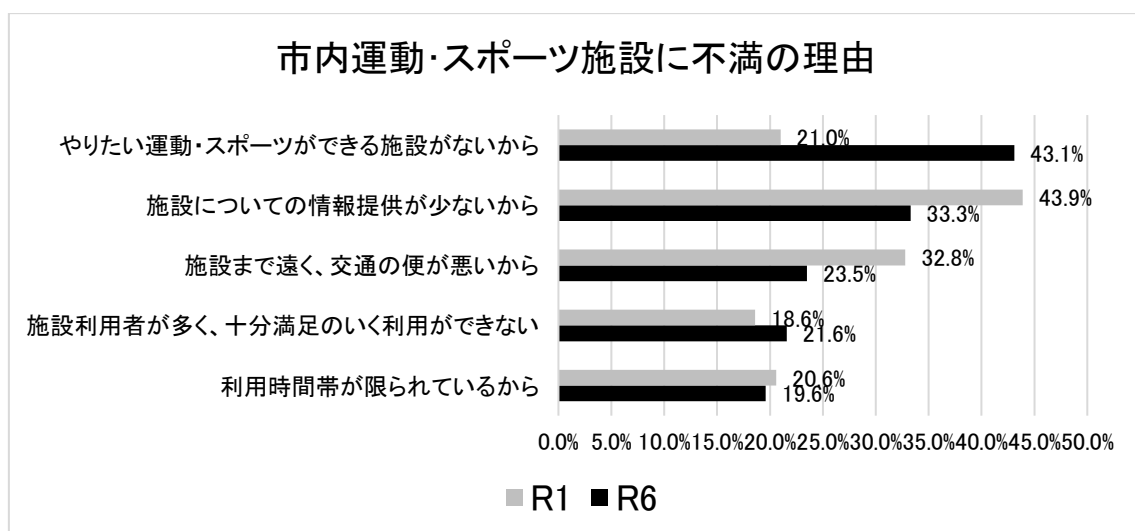
上位5項目を抜粋し、令和元年度市民意識調査と比較している。公道や自宅、公園など、身近な場所で運動・スポーツを行う割合が増えている。



上位5項目を抜粋し、令和元年度市民意識調査と比較している。ウォーキングや体操といった身近な場所のできる運動・スポーツが上位を占め、またトレーニングの割合が増えている。



令和元年度市民意識調査と比較すると、満足している割合は10.5ポイント増加し、不満の割合は5.0ポイント減少している。

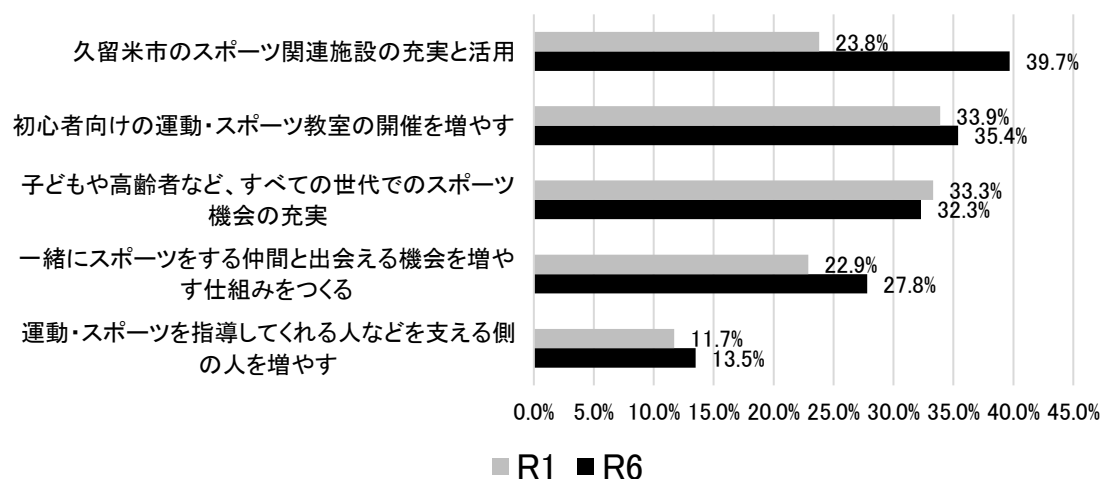


上位5項目を抜粋し、令和元年度市民意識調査と比較している。やりたい運動・スポーツができる施設がない割合が倍近く増加している。施設に関する情報の少なさについても、ポイントは減少したものの上位を占めている。

「やりたい運動・スポーツができる施設がない」という人が必要と思う施設

スキー・スノーボード施設、屋内スキー場、キャンプ場、全天候型室内競技場、ラグビー場、オリンピック競技ができる施設、バスケットボール、ヨガ、球技ができる公園、最新の器具が使える施設、泳げる温水施設、個室で使えるスポーツ施設、24時間対応スポーツ施設、クライミング、卓球、槍道場、テニスコート

スポーツに親しむために久留米市に力を入れて欲しいこと



上位5項目を抜粋し、令和元年度市民意識調査と比較している。運動・スポーツ施設に関すること、スポーツ教室や機会といった「場」の充実、ささえる人に関する期待の意見が多くなっている。

【今後の施策の方向性】

- 男女別では女性、年代別では若者世代・現役世代の運動・スポーツ実施率の向上をめざす取り組みが必要。
- スポーツをより身近にできる環境づくり。
- 年代を問わずあらゆる市民がスポーツに親しむことができる機会を充実させるため、更なる情報発信の強化が必要。

議事（２）次期計画策定に向けた関係団体からの意見について

１．目的

スポーツの関係団体に対し、本市のスポーツ推進に関する課題等についてアンケートを取り、次期計画策定に向けた情報収集を行った。

２．関係団体（回答があったもの）

久留米市陸上競技協会、久留米市手をつなぐ育成会（知的障害者団体）、福岡県高校体育連盟、久留米市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、久留米市（都市建設部、上下水道部、総合支所（田主丸・北野・城島））

分類	市のスポーツ推進を図る上での課題	市が何に力を入れたらもっとスポーツ推進が図られるか
する	<ul style="list-style-type: none">○ 部活動の地域移行に伴い、生徒数減少を上回るペースで競技人口の減少が考えられる。○ スケボー等といった次世代スポーツができる施設がなく、禁止されている公園等で行い利用者とのトラブルが多くなっているため、専用施設整備が課題。○ スケボーパーク設置を求める 400 名超の署名が提出されており、若者の声が多数挙がる状況はスポーツ推進を図る上で課題。○ 夜や早朝でも歩ける安全な運動場所の確保。○ 可処分時間（育児や介護、仕事以外の余暇）が少ない。○ 成人年齢層の運動実施率が低い。また子どものスポーツ離れが進み小学低学年の体力低下がみられる。	<ul style="list-style-type: none">○ 年齢や性別、障害有無関係なく誰もが一緒に参加できるスポーツイベントを企画してほしい。○ 小中高校への出張スポーツ教室等のイベントを通して若い世代にスポーツの楽しさを伝える取組をしてほしい。○ 学校施設開放の異種目チーム間による利用時間の確保が難しくなっているため、ジュニアチームに学校以外の体育施設を無料貸出したらどうか。○ 地域のスポーツ団体は、高齢化及び担い手不足により活動の存続や大会実施など困難な状況であるため、体験講座等生涯スポーツを推進する事でスポーツに対する敷居が低くなる。
みる	<ul style="list-style-type: none">○ 久留米市は体育施設が充実しており、全国・世界大会の誘致が市民のスポーツに対する関心・意識の向上につながると考える。	<ul style="list-style-type: none">○ プロスポーツチームの誘致。○ 特定の競技に特化した「メッカ、聖地」づくりにより世界中から合宿や大会の誘致ができるのでは。
ささえる	<ul style="list-style-type: none">○ 競技団体会員の多くが中学校部活動顧問で占められている。部活動がなくなれば競技団体を退会する人が大半であるため、団体の存続や活動に支障をきたす事が考えられる。	<ul style="list-style-type: none">○ 中学校部活動地域移行に関わる指導者支援。○ 部活動顧問のレベル差をなくすため、指導者を民間委託する事でレベルアップに繋がり教員の働き方改革にも寄与する。○ 総合型クラブ運営において施設や指導者確保、資金面で厳しいところがあり、補助金等での支援ができないか。

議事（３）子どもの運動・スポーツの習慣に関するアンケートについて

市立学校の児童生徒に対し、「市民意識調査」の内容に準じたアンケート調査を実施した。

１．対象：市立学校の児童生徒

- 小学１～３年及び特別支援学校小学部の児童は、保護者が代弁する形式
- 小学４～６年及び特別支援学校中学部高等部、中学高校の児童生徒は、各本人が直接回答（双方とも回答は任意）

２．調査期間：９月１０日（水）～１０月１０日（金）

３．調査手法：電子申請方式による各学校を通したオンライン調査回答

４．調査項目：

- この１年間で行った運動・スポーツ、及びその頻度、場所
- 今後やってみたい運動・スポーツ
- 現在の市内運動・スポーツ施設に対する満足度、及び不満の理由
- 今よりもっとスポーツに親しむために久留米市に力を入れて欲しいこと

サンプル数

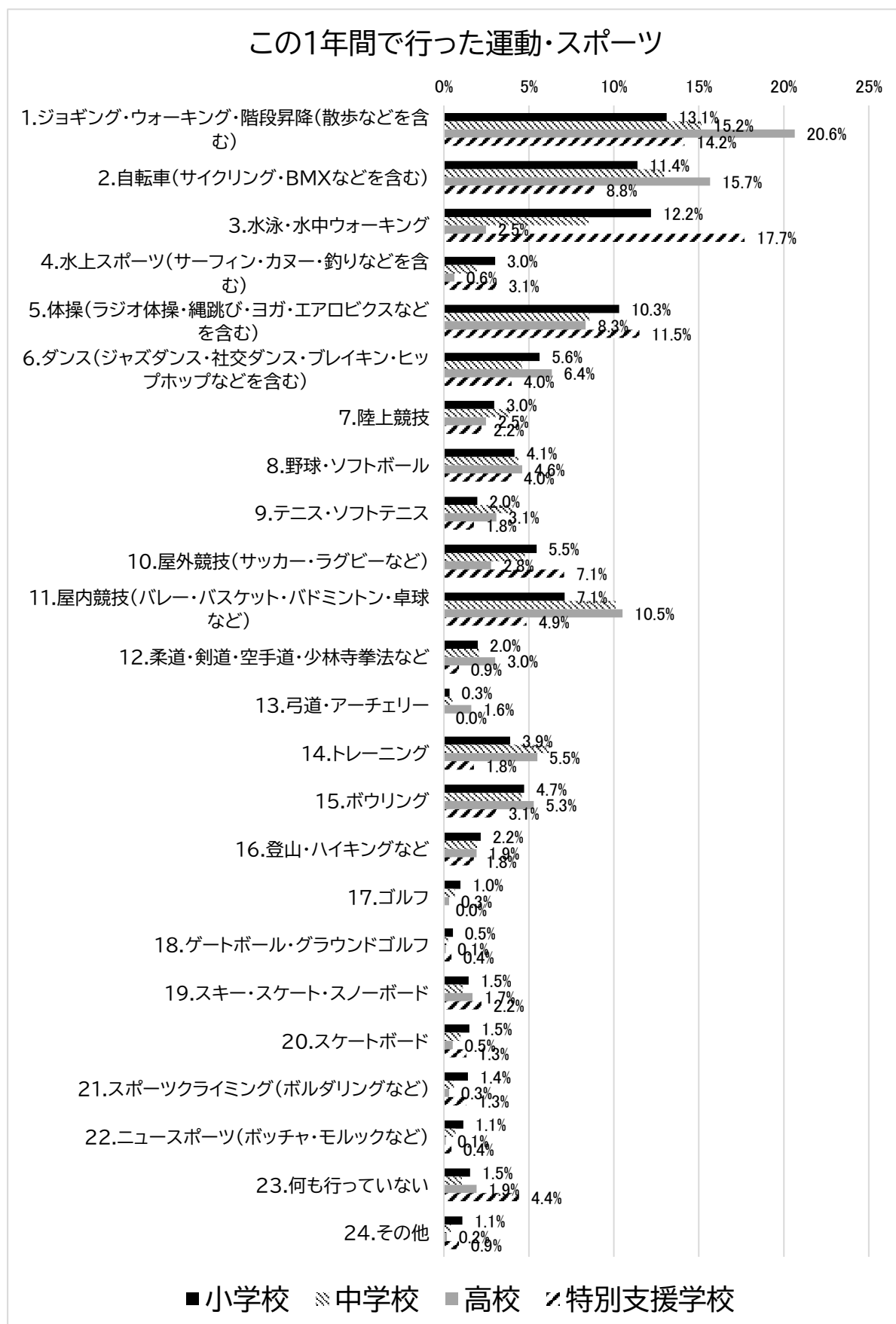
選択肢	数	割合
小学１年	687	9.7%
小学２年	778	11.0%
小学３年	635	9.0%
小学４年	1,650	23.3%
小学５年	1,620	22.9%
小学６年	1,702	24.1%
小学校計	7,072	100%

選択肢	数	割合
中学１年	1,598	35.7%
中学２年	1,348	30.1%
中学３年	1,536	34.3%
中学校計	4,482	100%

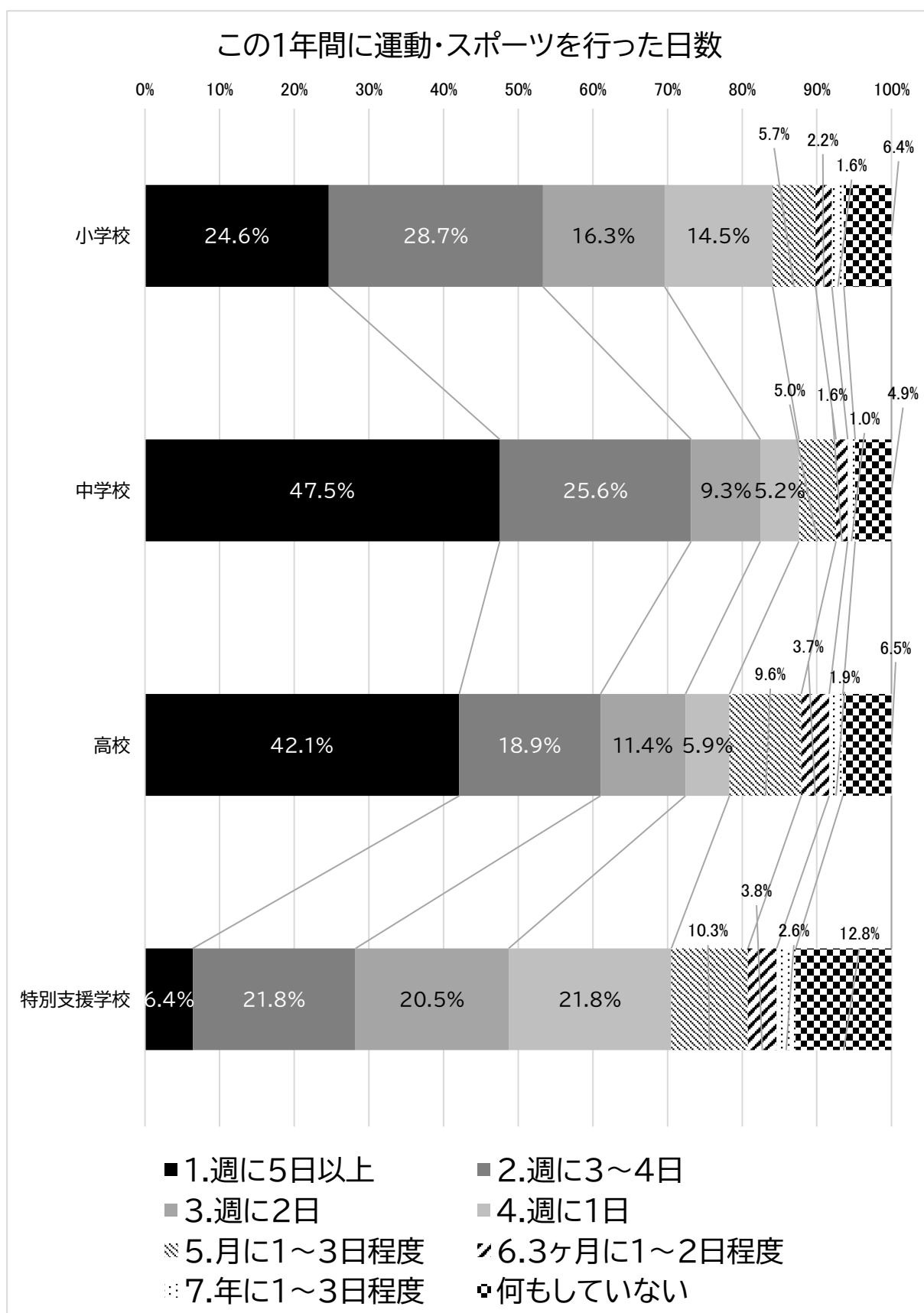
選択肢	数	割合
高校１年	317	36.8%
高校２年	283	32.9%
高校３年	261	30.3%
高校計	861	100%

選択肢	数	割合
小学部１年	21	26.9%
小学部２年	19	24.4%
小学部３年	16	20.5%
小学部４年	6	7.7%
小学部５年	7	9.0%
小学部６年	7	9.0%
中学部１年	1	1.3%
中学部２年	1	1.3%
中学部３年	0	0.0%
高等部１年	0	0.0%
高等部２年	0	0.0%
高等部３年	0	0.0%
特別支援学校計	78	100%

5. 調査結果：

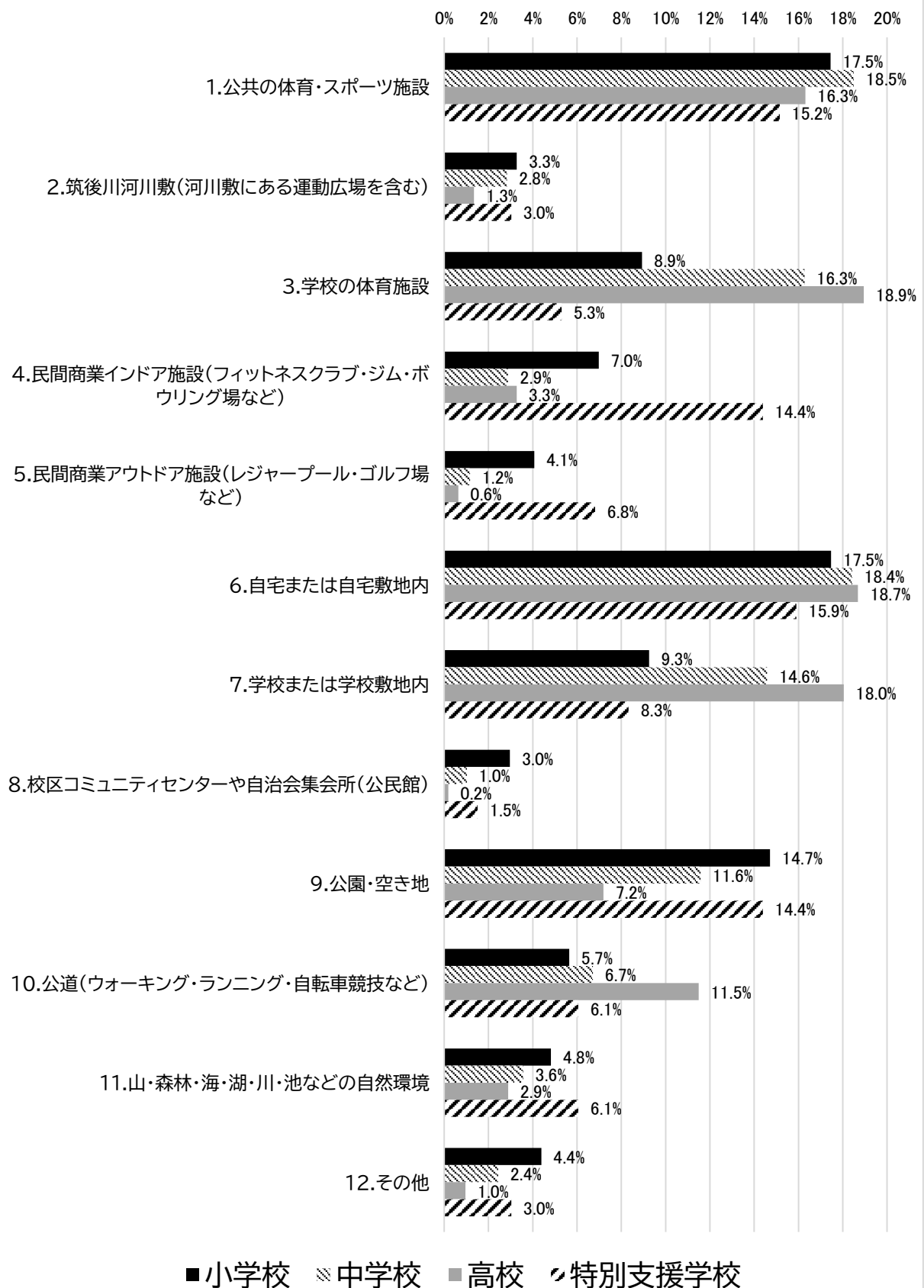


ジョギングやウォーキング、自転車、体操等、特段の施設を必要とせず身近にできるスポーツが上位を占めている。また高校生以外は水泳の割合も高い。



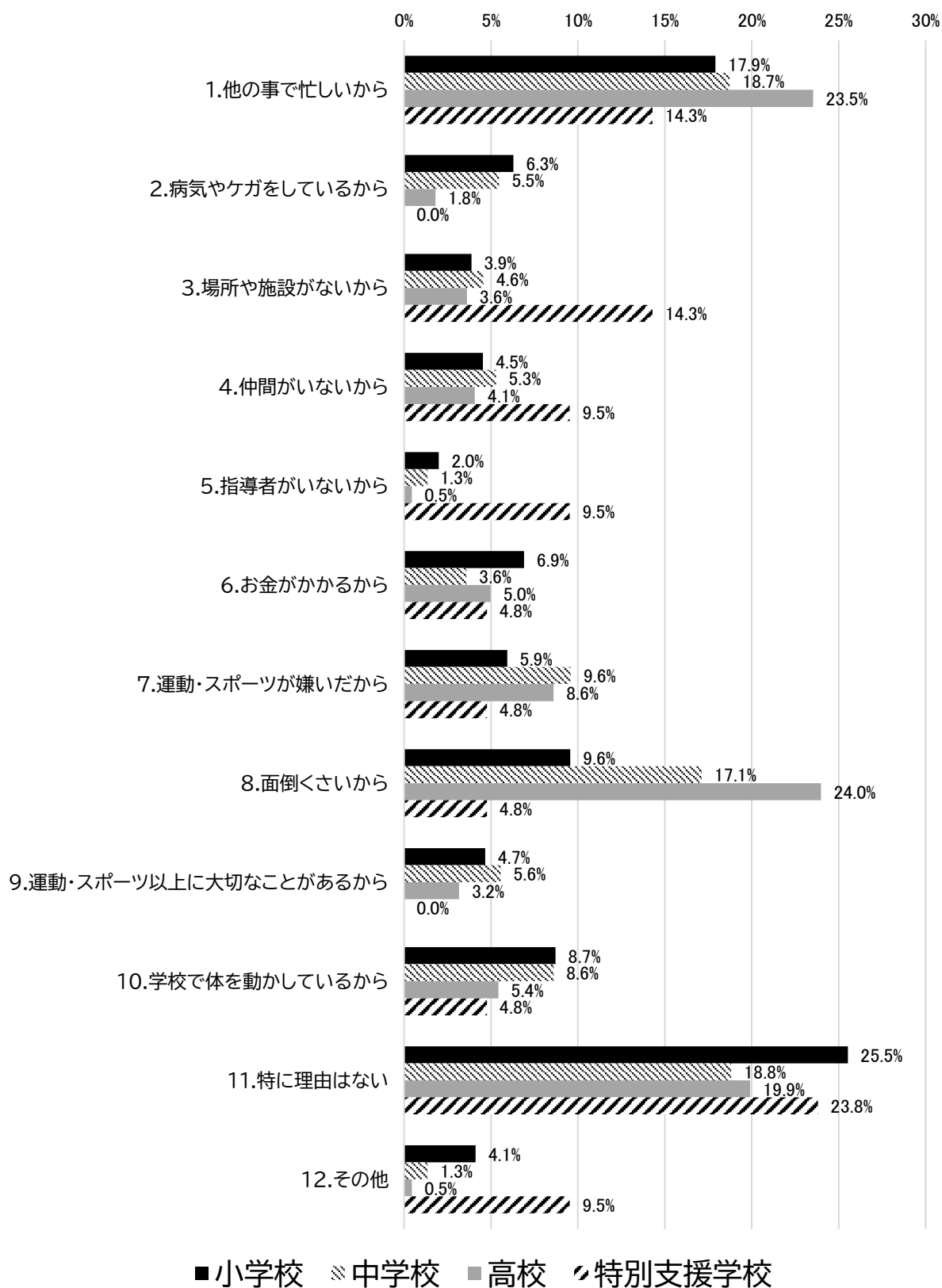
週1日以上の実施率については、小学生 84.1%、中学生 87.6%、高校生 78.3%、特別支援学校生 70.5%となっている。中学生や高校生の週5日以上の実施率が高いのは運動部活動の影響、小学生の週2～4日の割合が高いのはジュニアスポーツクラブ等の習い事の影響が考えられる。

この1年間で運動・スポーツを行った場所



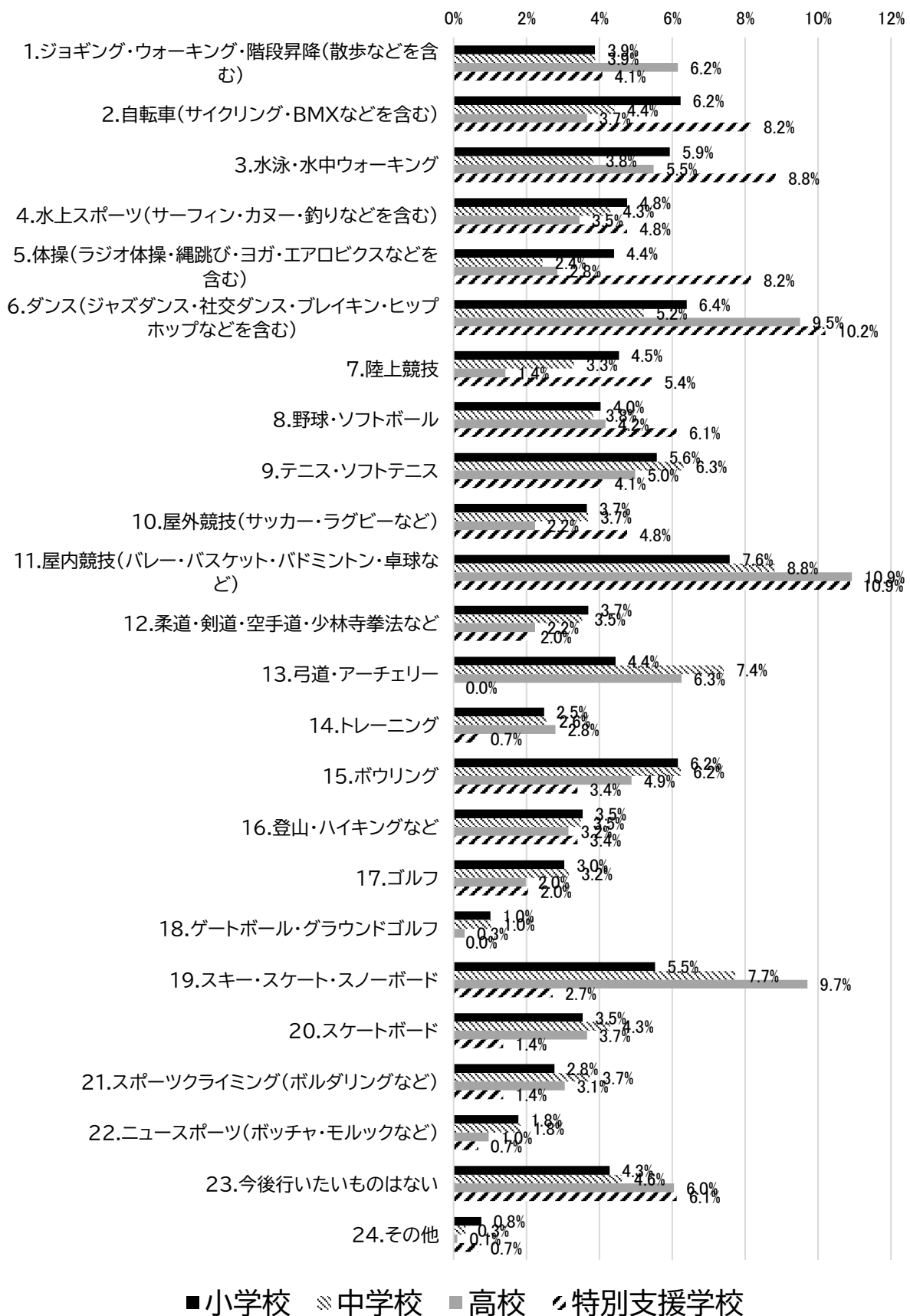
自宅や学校、公園空き地等、身近な場所の割合が高く、また社会体育施設の割合も高い。

運動・スポーツをしなかった・できなかった理由



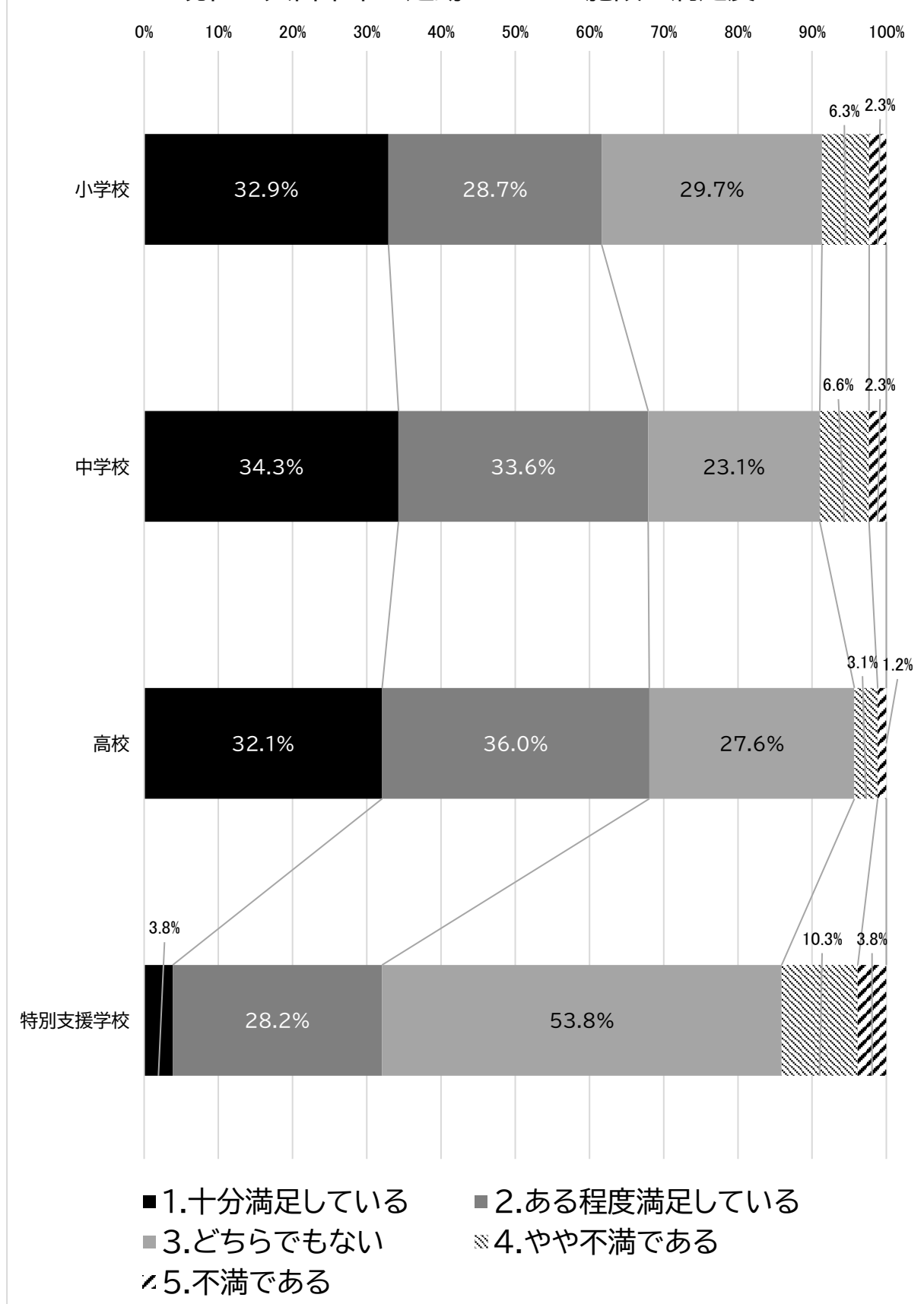
他の事で忙しいとか、面倒くさい等の割合が高いものの、特に理由がないというのが顕著である。また特別支援学校生においては、施設がない事や仲間・指導者がいない事が挙げられており、自宅等から長距離の移動ができなかったり共にスポーツに親しむ人がいない事でスポーツの実施が困難になっていると推察される。

今後やってみたい運動・スポーツ



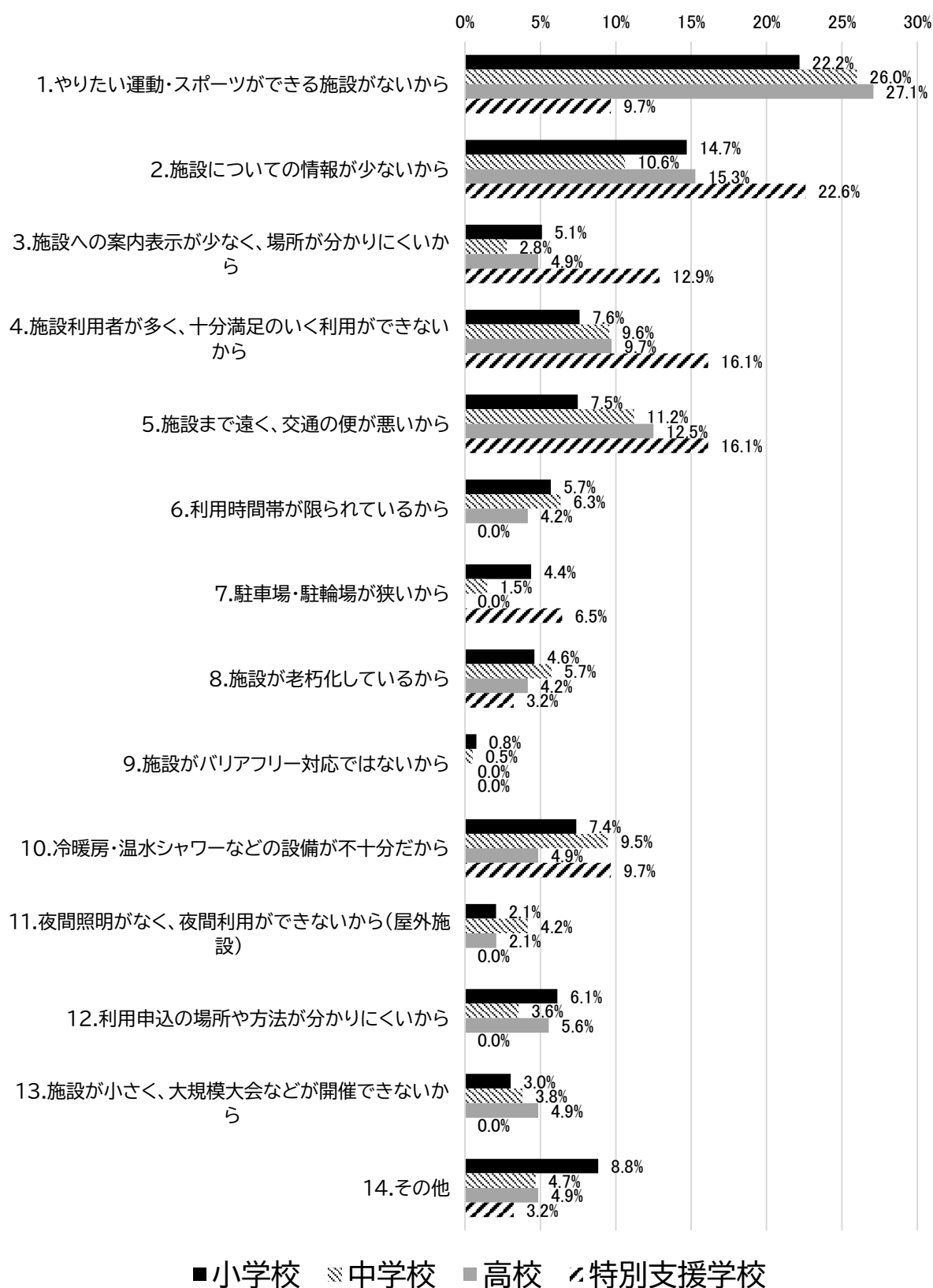
ダンスや屋内競技の人気の高い。高校生においてはスキー・スケート・スノーボードといったウィンタースポーツの人気の高い。

現在の久留米市の運動・スポーツ施設の満足度



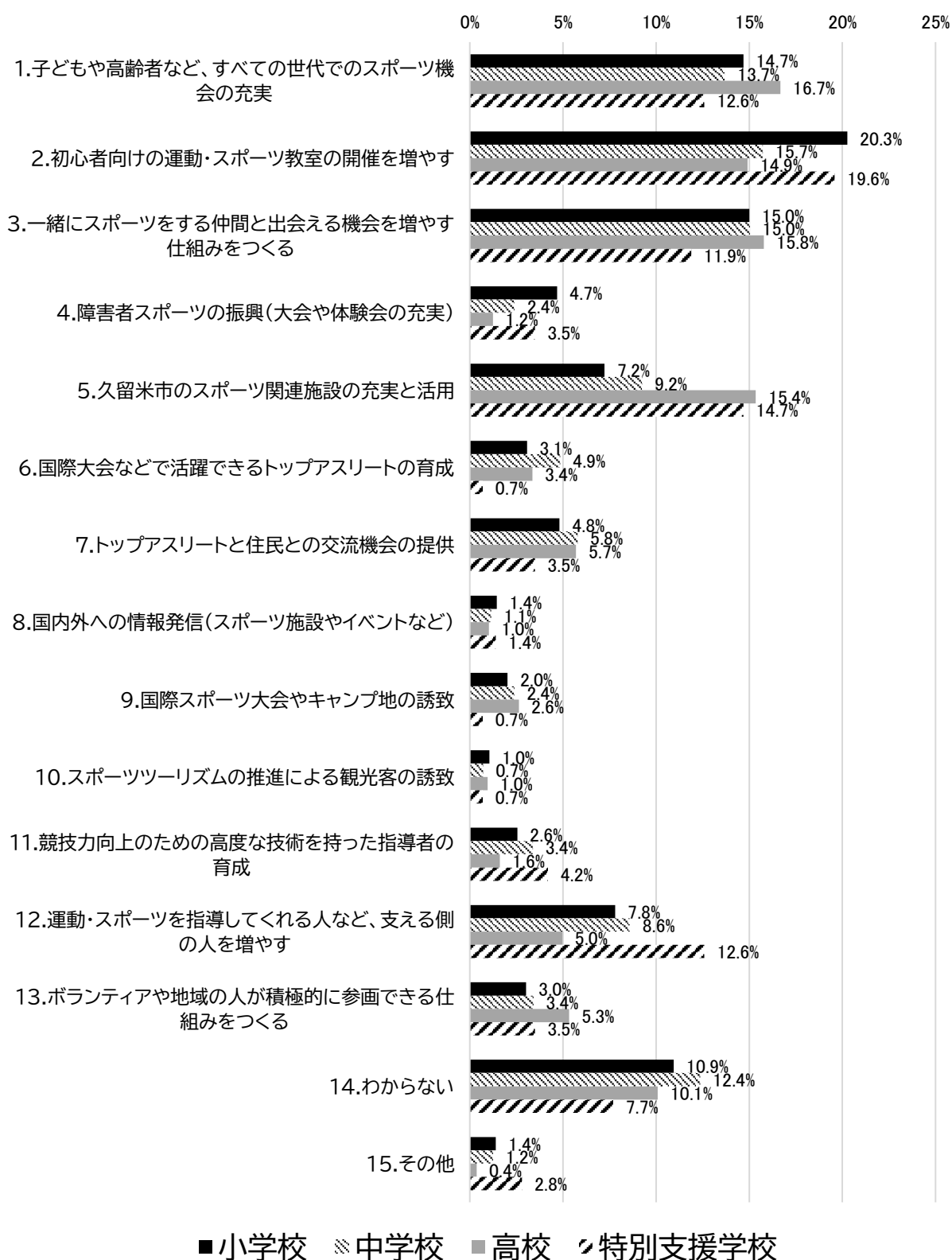
十分・ある程度含めた満足度に関しては、小・中・高生は50%を超えているが、特別支援学校生に関しては32.0%と低くなっている。

市内運動・スポーツ施設に不満の理由



やりたい運動・スポーツができる施設がない、また施設に関する情報が少ないといった理由の割合が高い。また特別支援学校生に関しては、施設まで遠いため気軽に利用できないのが不満要素となっているようである。

スポーツに親しむために久留米市に力を入れて欲しいこと



初心者向けのスポーツ教室を増やす事や、全ての世代でのスポーツ機会の充実、仲間と出会える機会を増やす仕組み等が求められている。また高校生や特別支援学校生に関してはスポーツ施設充実への期待値も高い。特別支援学校生にとってはスポーツ活動を支えてもらえる人材の育成も求められている。

【今後の施策の方向性】

- 初心者向けの運動・スポーツ教室の開催を増やし、様々なスポーツに触れる機会を創出する取り組みが必要。
- 年代を問わずあらゆる市民がスポーツに親しむことができる機会を充実させるため、更なる情報発信の強化が必要。
- 子どもたちが一緒に運動・スポーツをする仲間と出会える機会を増やす仕組みの検討が必要。

議事（４）次期計画の骨子案について

I 章. 久留米市のスポーツ政策の現状と課題

1. 久留米市スポーツ推進計画（旧計画）の検証
 - （１）久留米市スポーツ推進計画（旧計画）の概要
 - （２）政策ごとの検証及び総括
2. 市民意識調査から見える現状と今後の方向性
3. スポーツ関係団体からの意見集約
4. 運動・スポーツの習慣に関する子どもアンケートの結果

II 章. 久留米市スポーツ推進計画（令和８年度～令和１２年度）

1. 計画策定の意義

旧計画の課題を踏まえるとともに、社会状況の変化や国・県の動向といったスポーツを取り巻く状況に対応した次期計画を策定し、今後の市のスポーツ推進の基本的な方向性を示し具体的な取組を明らかにする。
2. 計画の位置付けと期間

R 8～1 2 年度（５年間）

※ 市総合計画（前期基本計画）と合わせる
3. 計画の基本理念

活力あふれる市民のスポーツの振興と豊かなスポーツライフの創造・地域づくり（旧計画を継承）
4. 基本方針と目標設定
 - スポーツ機会の充実・活動の活性化
 - スポーツ環境基盤の充実
 - スポーツを活かした地域活性化
 - スポーツに関する情報発信の充実
5. 施策の体系（別紙）
6. 具体的な施策内容（別紙）

III 章. 施策の推進に向けて

1. 計画の推進体制

市・市スポーツ協会・国・県・市民・地域・学校・各種スポーツ団体が相互連携を図りながら計画推進に取り組む。
2. 計画の進行管理

取り組み内容を審議会へ報告し、専門的観点から意見をいただきながら継続的効果的な計画の進行管理を行う。

(別紙) 計画の体系及び具体的な施策内容 (案)

基本方針	具体的施策 (★新規)
(1) スポーツ機会の充実・活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ① 年代や障害の有無等にかかわらず、誰もが身近にスポーツを親しむ機会の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 若者世代や現役世代のスポーツの推進 ★ ・ 高齢者スポーツの推進 ・ 障害者スポーツの普及促進 ② 大規模大会で活躍が期待されるジュニアアスリートの育成、充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ ジュニアアスリートの競技力向上 ・ 競技大会出場選手への支援 ・ スポーツ医科学を活用した競技者の支援 ③ 多様なニーズを踏まえた新たなスポーツなどの普及促進 ★ <ul style="list-style-type: none"> ・ アーバンスポーツ教室・体験会の実施 ★ ・ アーバンスポーツ施設整備の検討 ★ ④ 中学校部活動の地域展開 ★ ⑤ スポーツを通じた健康増進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康づくりのための運動の推進 ・ 保健分野と連携した健康づくり ⑥ スポーツを通じた共生社会の実現 ★ <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者スポーツの普及促進 (再掲) ・ スポーツを通じた女性の活躍促進 ★
(2) スポーツ環境基盤の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① スポーツ施設の充実と活用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近なスポーツ施設としての機能充実 ・ 安全で安心できる施設の維持管理 ② 指導者やボランティアなどスポーツを支える人材の確保、育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種スポーツ講習等の情報提供 ・ 運動・スポーツ指導者養成のための講習会開催 ・ スポーツ推進委員への研修 ・ 保育園・幼稚園等職員の運動遊びに対する啓発 ・ 指導者やボランティアの人材育成と活用推進 ・ 地域スポーツ推進者への表彰 ③ スポーツ関連団体の組織強化、連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公益財団法人久留米市スポーツ協会の組織・事業内容の充実 ・ 総合型地域スポーツクラブの活動支援体制の充実 ・ 学術機関との連携 ④ スポーツにおける健全性の向上、事故の防止 ★ <ul style="list-style-type: none"> ・ クリーンでフェアなスポーツの推進 ★
(3) スポーツを活かした地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> ① 大規模大会などスポーツコンベンション誘致による地域活性化 ② 連携協定を活かしたプロスポーツチームなどによるスポーツイベントの充実
(4) スポーツに関する情報発信の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 様々な情報を知る機会の提供 ★ ② 公共施設予約システムの充実など利便性の向上 ★

【参考】体系の新旧比較表（●：次期総合計画案と同じ項目、+：スポーツ推進計画独自追加項目案）

現計画			次期計画（素案）	
基本方針	施策の方向性	具体的施策	基本方針	具体的施策
I スポーツ参画人口の拡大	A スポーツを「する」市民の拡大	1. スポーツ機会の提供・充実 2. 学校体育及び部活動の充実 3. アスリートの競技力向上	●スポーツ機会の充実・活動の活性化	●年代や障害の有無にかかわらず、誰もが身近にスポーツを親しむ機会の充実 ●大規模大会で活躍が期待されるジュニアアスリートの育成、充実 ●多様なニーズを踏まえた新たなスポーツなどの普及促進 + 部活動の地域展開 + スポーツを通じた健康増進 + スポーツを通じた共生社会の実現
II スポーツ環境の基盤となる「人材」と「場」の充実	B スポーツ「人材」の充実	1. 指導者の育成・支援 2. スポーツ関連団体の組織強化・連携	●スポーツ環境基盤の充実	●スポーツ施設の充実と活用促進 ●指導者やボランティアなどスポーツを支える人材の確保、育成 + スポーツ関連団体の組織強化、連携 + スポーツにおける健全性の向上、事故の防止
	C スポーツ「場」の充実	1. スポーツ施設の充実 2. スポーツを身近にできる場の確保		
III スポーツを通じた、活力があり絆の強い社会の実現	D スポーツを通じた、生きがいがある社会の実現	1. 生きがい・仲間づくりの推進 2. 健康づくりの推進 3. 障害者スポーツの普及促進	●スポーツを活かした地域活性化	●大規模大会などスポーツコンベンション誘致による地域活性化 ●連携協定を活かしたプロスポーツチームなどによるスポーツイベントの充実
	E スポーツを活かした地域の活性化	1. スポーツコンベンションによる地域活性化 2. 観戦型スポーツイベントの充実 3. スポーツ関連情報の発信	+ スポーツに関する情報発信の充実	+ 様々な情報を知る機会の提供 + 公共施設予約システムの充実など利便性の向上